
◆ 研究室だより

日本原子力研究所
エネルギーシステム研究部
核データセンター

日本原子力研究所
核データセンター

岩本 修

iwamoto@ndc.tokai.jaeri.go.jp

本来、自分たちの活動を外部に向けて発信するのには、活動の全体を把握しているグループのリーダーが最も適任と考えられるが、核データニュースの編集会議でなぜか私が著者に指名されてしまった。核データセンターの一番下っ端の私がこのようなことを頼まれたのは、核データセンターの活動全体を包括的に紹介するということより、下から見た核データセンターについての私感を編集委員の一部の方が期待されたからである。核データセンターの活動に関しては、インターネットを通して公表されており、”<http://www.ndc.tokai.jaeri.go.jp>”から見る事ができる。したがって本原稿は核データセンターの全体的な活動の紹介というより、私の雑感を少しと、核データセンター職員の皆さんに頼んで書いてもらった各自の一言という構成にさせて頂いたのでご了承願いたい。

雑 感

私が原研に就職し核データセンターに配属されて、もうすぐ 8 年が過ぎようとしているが、この 8 年間で核データセンターの状況もずいぶん変わったように思える。私が核データセンターに来たばかりの頃は、職員の数 11 人いたが現在は半数近くの 6 名になり、予算もずいぶん減ってきている。核データセンターを取り巻く状況は年々悪化してきていると言える。核データセンターという名前からして、日本における核データ活動の中心を担うことが期待されていると思われるが、まさにその名に恥じず、日本独自の評価済核データファイル JENDL の作成のため、大きな努力を払い忙しく働いている核データセンターの人たちの姿をこの 10 年近く間近で見てきたわけであるが、原研とサイク

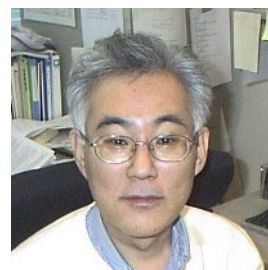
ル機構が統合されることになり、ここ数年の内に核データセンターも大きな岐路に立たされる可能性は大きい。核データの評価を行い、評価済核データファイルを作るという仕事は、地味であり、その仕事自体で華々しい成果とみなされるのは難しい。原子力またはその他の原子核反応を利用した応用の分野において重要な基盤の一つとなっていることは疑いなく、この基盤をおろそかにすることは、その技術の根本の空洞化を招く恐れがある。しかし、こう言う主張は現在の厳しい状況の中では通用しないらしく、生き残るためには核データという研究分野も更なるアピールを行っていく必要があると思われる。

核データセンターのメンバーから一言

片倉 純一 [室長]

(崩壊熱評価WG、核分裂生成物収率データ評価WG、ENSDFグループ、JE
NDL編集グループ、HPRLグループ)

昨年の8月より、室長になりました。室員の足を引っ張らないようにしたいと思っています。JJ 統合も、来年になりました。センター業務、シグマ委員会等影響を受けることが想定されます。どのような形が良いのか、良く考えて行かなければならないと思っています。今後ともよろしくお願いします。



中川 庸雄

(評価計算支援システムWG、FP核データ評価WG、JENDL編集グループ、
CINDAグループ、核データニュース編集委員会)

JENDL の編集を長年やってきました。今はマイナーアクチニドのデータ改良を主な仕事にしています。その他、「核データニュース」の編集、核データセンターホームページ (<http://wwwndc.tokai.jaeri.go.jp>) コンテンツのメンテナンス、他をやっています。



柴田 恵一

(高エネルギー核データ評価WG、FP核データ評価WG、JENDL編集グループ、シグマ委員会あり方検討小委員会)

軽核から中重核 (FP 核種を含む) までの中性子核データ評価を担当しています。現在の課題は、汎用ライブラリーJENDL-4の作成です。ユーザーニーズに根ざした信頼度の高いライブラリーを、如何に効率良く作成するか頭の痛いところです。

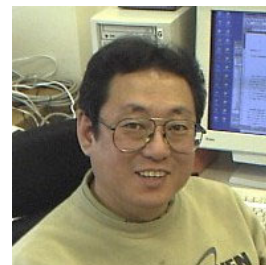
昨年末、ふと立ち寄った銀座アップルショールームで、Mac にはまってしまいました。



自宅では Windows から Mac への移行を画策しています。そのうち、職場でも Mac にしようかな。50 歳を過ぎ、少しは環境の変化があった方が宜しいかと思っています。

深堀 智生

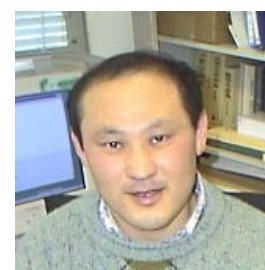
(高エネルギー核データ評価WG、評価計算支援システムWG、核分裂生成物収率データ評価WG、JENDL編集グループ、CINDAグループ、HPRLグループ)



高エネルギー核データ関連の高エネルギーファイル、光核反応データファイル、PKA/KERMA ファイル編集を担当しています。皆さんからの期待が大きいのになかなか公開できずに申し分けなく思っています。現在、根性を入れて取り組んでいます。核データ研究会事務局、公募特会（統合学データ利用システム担当）、メーリングリスト管理、www ページ（一部）管理も行っています。その他、原子力学会では、核データ部会運営委員（編集担当）、編集委員会（第2分野編集責任者（副））、Mグループ（電子投稿）、プログラム編成委員等、国際協力では、OECD/NEA/NSC/WPEC/SG-C（HPRL）コーディネータ（今年5月でクビ?）、JAERI-CEA 群分離・核変換研究協力、JAERI-KAERI 研究協力等でも活動しています。余りにも手を広げすぎて、自己収集が付かない状態に落ちいています。少し整理をせねばと思っているのですが...

市原 晃

(評価計算支援システムWG、天体核データ評価WG、JENDL編集グループ)



核データ活動を支援するための評価コードの開発に取り組んでいます。今年度は、球対称光学ポテンシャルを用いた核反応断面積及び弾性散乱（shape elastic scattering）断面積計算コードを開発しました。今後、distorted wave Born approximation（DWBA）による非弾性散乱断面積計算コードを開発したいと考えています。

岩本 修

(評価計算支援システムWG、核分裂生成物収率データ評価WG、JENDL編集グループ、CINDAグループ、核データニュース編集委員会、シグマ委員会あり方検討小委員会)



主としてマイナーアクチニドの評価を行っています。マイナーアクチニドは実験データが乏しいので、モデル計算に頼る部分が多くなってきます。現在は計算コードの開発を行っています。

*名前の次の行の括弧内は所属するシグマ委員会のグループを示す。